

二〇二二(令和四)年度 沖縄国際大学 一般選抜試験問題

【国語② 古文】

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
- 二、この問題は、5ページある。解答用紙は、マーク用が一枚ある。
- 三、マーク用の解答用紙は【1】～【9】まで使用する。
- 三、試験中に問題の印刷不鮮明、ページの落丁、乱丁及び解答用紙の汚れ等に気がついた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 四、解答用紙は直接機械処理をするので、折り曲げたり、汚してはいけない。
- 五、マーク用解答用紙には、受験番号、氏名、科目、受験地が印字されているので、間違いがないか確認すること。
- 六、筆記用具は、必ず鉛筆（HB）または○・五ミリのHBシャープペンシルを使用し、丁寧に記入すること。

- また、訂正する場合は、プラスチック製消しゴムで完全に消してから改めて記入すること。
- 七、解答は、設問ごとに指示してある番号の解答欄にマークすること。例えば解答番号【20】という問いに対して③と解答する場合は、よい記入例のようにNo.【20】の解答欄の③にマークすること。

○よい記入例

No.	解 答 欄									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
【20】	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

○悪い記入例（得点にならない）

【21】 2ヶ所にマークした

【22】 はみだしてマークした

【23】 ぬりつぶした

No.	解 答 欄									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
【21】	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
【22】	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
【23】	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

八、試験終了後、問題用紙は持ち帰ること。

二〇二二（令和四）年度 沖縄国際大学 一般選抜試験問題

【国語② 古文】

※ 解答はすべて解答用紙に記入すること。

I 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、陸奥国、或る郡に住みける賤しき者有りけり。家にあまたの犬を飼ひ置きて、常にその犬どもを具して深き山に入りて、猪・鹿を、犬どもを勧めて食ひ殺させて取ることをなむ、昼夜朝暮の業としける。されば、犬どもも役と猪・鹿を食ひ習ひて、主、山へ入れば各々、喜びてしりさきに立ちてぞ行きける。かくすることをば世の人、犬山と云ふなるべし。

しかる間、この男、例のことなれば、犬どもを具して山に入りけり。前々も食物なども具して、二三日も山に有ることなりければ、山にとどまりてありける夜、大きな木のうつほのありける内に居て、傍らに ^aあやし ^{やなくひ}の弓・胡録・太刀など置きて、前には火をたきてありけるに、犬どもはめぐりに皆ふしたりけり。それに、あまたの犬の中に殊に勝れて賢かりける犬を年ごろ飼ひ付けてありけるが、夜うちふくる程に、こと犬どもは皆ふしたるに、この犬一つ俄かに起き走りて、この主の木のおつほに寄りふしてある方に向ひて、おびたたく吠えければ、主は、こは何を吠ゆるにかあるらむとあやしき思ひて、そばひらを見れども吠ゆ ^Aべき物もなし。犬なほ吠ゆることとどまらずして、後には主に向ひて踊りかかりつつ吠えければ、主驚きて、この犬の吠ゆべき物も見えぬに、我に向ひて、かく踊りかかりて吠ゆるは、^b獣は主知らぬ者なれば、我を、定めてかかる人もなき山中にて食ひてむと思ふな ^Bめり、こやつ切り殺して ^Cばやと思ひて、太刀抜きておどしけれども、犬あへてとどまらずして、踊りかかりつつ吠えければ、主、かかる狭きうつほにて、このやつ食ひ付きては悪しかり ^Dなむと思ひて、木のうつほより外に踊り出づる時に、この犬、我が居たりつるうつほの上の方に踊り上り、物に食ひ付きぬ。

その時に主、我を食はむとて吠えけるにはあらざりけりと思ひて、こやつは何に食ひ付きたるにかあらむと見る程に、うつほの上よりいかめしき物落つ。犬これをゆるさずして食ひ付きたるを見れば、大きな六七寸ばかりある蛇の、長さ二丈あまりばかりなるなりけり。蛇、頭を犬にいたく食はれて、えたへずして落ちぬるなりけり。主これを見るに、きはめて恐ろしき ^Eものから、犬の心あはれに思えて、太刀を以て蛇をば切り殺してけり。その後ぞ犬は離れて去にける。

はやう、木末はるかに高き大きな木のうつほの中に、大きな蛇の住みけるを知らずして寄りふしたりけるを、呑まむと思ひて蛇の下りけるが頭を見て、この犬は踊りかかりつつ吠えけるなりけり。主それを知らずして上をば見上げざりければ、ただ我を食はむずるなめりと思ひて、太刀を抜きて犬を殺さむとしけるなりけり。 ^c殺したらましかば、いかばかり悔しからましと思ひて、寝られざりける程に、夜明けて、蛇の大きさ・長さを見けるに、なかば死ぬる心地なむしける。寝入

りたらむ程に、この蛇の下りて巻き付きなむには、なにわざをかせまし、この犬はいみじかりける、我が為のこの世ならぬ財にこそ有りけれと思ひて、犬を具して家に返りにけり。

(『今昔物語集』 卷二九第三三話。新潮古典集成によるが、一部読みやすくした)

(注) うつほ——空洞

寸——3センチ

丈——3メートル

問一

傍線部分 a、b、c の口語訳として最もふさわしいものはどれか、次の①～⑤の中から一つずつ選び番号で答えなさい。解答番号はマーク用解答用紙 a 【1】 b 【2】 c 【3】

a 「あやしの」

- ① 靈妙な
- ② 粗末な
- ③ 異常な
- ④ 奇怪な
- ⑤ 不審な

b 「獣は主知らぬ者なれば」

- ① 主人が獣のことを知らないので
- ② 獣は主人というものを知らないのです
- ③ 獣には別の主人がいたので
- ④ 主人は獣の行方を知らないのです
- ⑤ 獣は主人の行方を知らないのです

c 「殺したらましかば、いかばかり悔しからまし」

- ① 犬を殺してしまったので、ひどく後悔したことよ
- ② 蛇を殺してしまったので、ひどく後悔したことよ
- ③ 犬であれ蛇であれ、生き物を殺したとすれば、後悔したにちがいない
- ④ 犬を殺したならば、どんなに後悔したことであろうに
- ⑤ 蛇を殺したならば、どんなに後悔したことであろうに

問二 二重傍線A、B、C、D、Eの文法的説明として正しいものはどれか、次の①～⑤の中から

一つずつ選び番号で答えなさい。解答番号はマーク用解答用紙A【4】B【5】C【6】D【7】

E【8】

A 「べき」

- | | |
|------------------|------------------|
| ① 受身の助動詞「べし」の連体形 | ② 受身の助動詞「べし」の連用形 |
| ③ 当然の助動詞「べし」の連体形 | ④ 当然の助動詞「べし」の連用形 |
| ⑤ 完了の助動詞「べし」の未然形 | |

B 「めり」

- | | |
|--------------|--------------|
| ① 自発の助動詞「めり」 | ② 可能の助動詞「めり」 |
| ③ 完了の助動詞「めり」 | ④ 推定の助動詞「めり」 |
| ⑤ 希望の助動詞「めり」 | |

C 「ばや」

- | | |
|------------------|------------------|
| ① 接続助詞「ば」＋格助詞「や」 | ② 接続助詞「ば」＋係助詞「や」 |
| ③ 接続助詞「ば」＋終助詞「や」 | ④ 願望の係助詞「ばや」 |
| ⑤ 願望の終助詞「ばや」 | |

D 「なむ」

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| ① 終助詞「なむ」 | ② 係助詞「なむ」 |
| ③ 形容詞の末尾「な」＋推量の助動詞「む」 | ④ 動詞の末尾「な」＋推量の助動詞「む」 |
| ⑤ 完了の助動詞の未然形「な」＋推量の助動詞「む」 | |

E 「ものから」

- | | |
|-----------|-----------|
| ① 同格の助詞 | ② 順接条件の助詞 |
| ③ 逆接条件の助詞 | ④ 仮定条件の助詞 |
| ⑤ 恒常条件の助詞 | |

問三

本文の内容に合致するものはどれか、次の①～⑤の中から一つ選び番号で答えなさい。解答

番号はマーク用解答用紙【9】

- ① 遠い前世の因縁で、犬と蛇は現世で再び殺し合うことになった。
- ② 山中で過ごすために食物を倅約したので、犬は主人に襲いかかることになった。
- ③ 頭上から落下した巨大な蛇は、男の煩惱が形をなしたものであった。
- ④ 山中の暗闇を恐れる犬の恐怖心のせいで、男は道に迷うことになった。
- ⑤ 山中で過ごした男は、自分の飼っていた犬がすばらしい財宝であることに気づいた。

国語② 古文 配点表

合 計	I			日 本 文 化 学 科	英 米 言 語 文 化 学 科 社 会 文 化 学 科
	問三	問二	問一		
20 点	4 点	2 点×5	2 点×3		
30 点	6 点	3 点×5	3 点×3		

※ 日本文化学科・英米言語文化学科・社会文化学科の受験者は、国語①の配点は70点となります。
国語②（古文・漢文）の配点は30点となりますので、国語①と国語②の合計した配点が100点となります。

※ 日本文化学科の受験者は、国語②の配点は古文20点、漢文10点となります。英米言語文化学科・社会文化学科の受験者は、国語②の配点は古文30点となります。